



身近な食材を活用したハンドクリームの保湿効果比較

班員 半田 芽愛 相生 美結
福良 華子 中田 泰治

指導者 吉原 妃花梨 先生

研究の動機と目的

動機：身近にある食材をハンドクリームに混ぜると、どのような水分量の変化が起こるのか気になったから。

目的：身近なものをハンドクリームに混ぜることで、保湿力のあるハンドクリームを作る。

仮説

オイルを肌につけるとよく保湿されることから、油分のあるものをハンドクリームに含ませると保湿されやすいのではないかと考えた。

研究方法

- ①自作のハンドクリームを作る。
- ②ハンドクリームに混ぜる身近で意外なものを探る。
- ③②で決めたものをハンドクリームに混ぜる。
(割合) **ハンドクリーム** : **材料** = **7** : **3**
- ④ハンドクリームを人の皮膚に塗り、水分量、保湿持続力、伸びやすさを調べる。

①



④

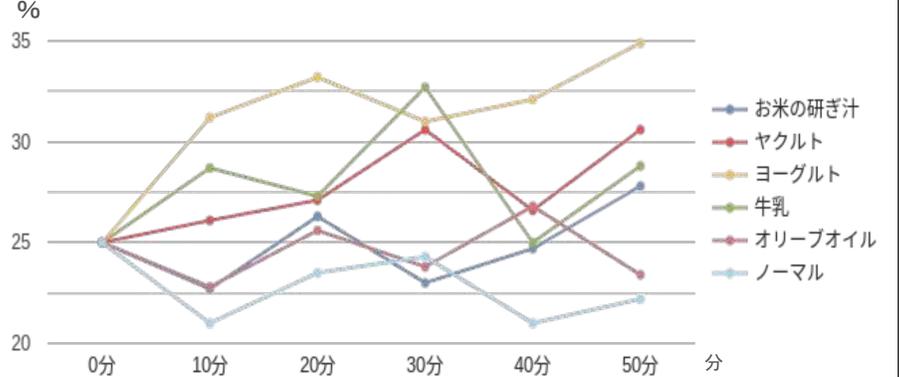


④

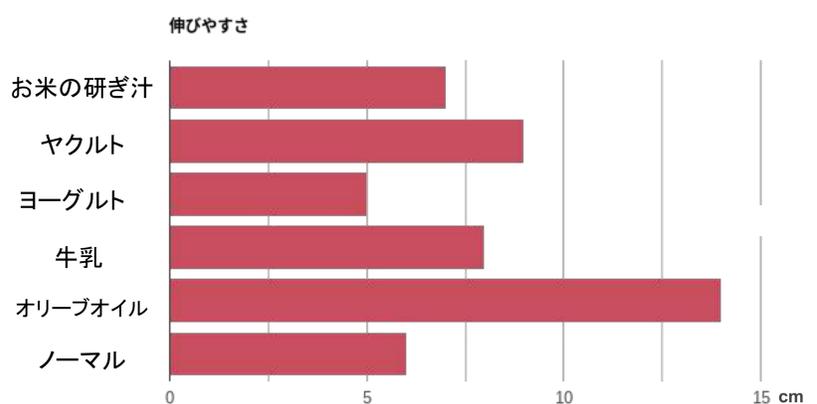


実験結果

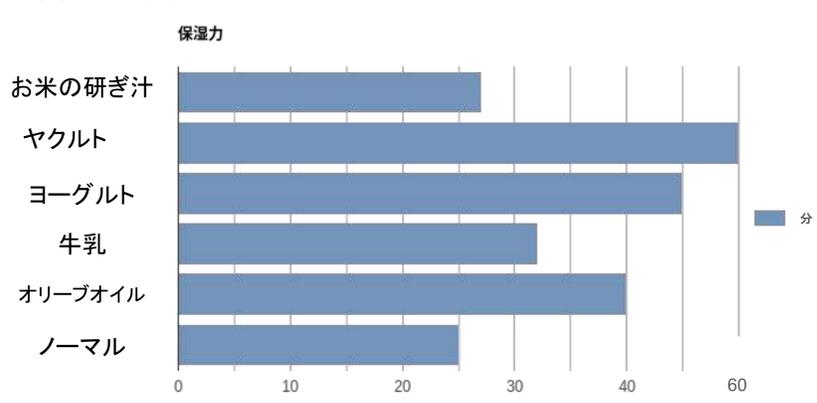
水分量・保湿力



伸びやすさ



保湿持続力



* 20人分の平均

考察

水分量・保湿力 : 50分地点でも35%と高い値を取っている**ヨーグルト**が効果が出やすいとわかる。

伸びやすさ : 加えた物質の中で唯一10cmを超えている**オリーブオイル**が効果が出やすいとわかる。

保湿持続力 : 他のもの比べてキムワイプが剥がれにくかった**ヤクルト**が効果が出やすいとわかる。

◎ヨーグルトとヤクルトには共通して乳酸菌が含まれていたため、保湿効果が高いとわかる。

必要な道具

ハンドクリーム：蜜蝋、蜂蜜、ホホバオイル、精油
加えたもの：ヨーグルト、牛乳、ヤクルト、お米の研ぎ汁、オリーブオイル
実験道具：肌水分量チェッカー、キムワイプ

参考文献

ハンドクリームとボディークリームの作り方：秋田屋
https://akipure.com/knowledge_beeswax/160

まとめ

今回のグラフの結果を平均して私達はヤクルトが最もハンドクリームに加えることが適していると考えました。